



## 楽しく年輪を重ねよう

## 表紙から



新春ゲートボール大会の様子(2/7)

たくさんの人と交流することが若さを保つ秘けつだそうです

年齢を感じさせないパワーで、パソコンなどの今までやったことがないことにも、次々に挑戦しています。サークル活動も活発で、現在は十五

今月の表紙は、札幌市東区年輪の会(会長 中嶋政男さん)です。同会は高齢者が心と力を合わせて活動することによって、生きがいを求めることを目的としている団体です。サークル活動や運動会、チャリティバザーへの参加などさまざまな活動をしています。メンバーは、東区が主催している高齢者対象の講座「年輪大学」の修了生の方々です。年輪大学は、一九七四(昭和四十九)年から今までに約千七百人の人が受講してきて、現在年輪の会には、六十

歳代から九十歳代まで、四百四十一人の会員がいます。

会員の皆さんは年

齢を感じさせないパ

ワーで、パソコンな

どの今までやったこ

とがないことにも、

次々に挑戦していま

す。サークル活動も

活発で、現在は十五

のサークルが、文化・芸術やスポーツなどに取り組んでいるそうです。昨年四月には、演歌や洋楽に合わせて踊る「リズムダンス部」を創部。月に二度行われる練習では、毎回五十人を超える部員が集まって、大きな輪になって踊ります。同部の皆さんは「リズムダンスは健康にも良いし、たくさんの人と接することもできてとても楽しいですよ」と笑顔で話してくれました。

生き生きと活動している会員の皆さんの姿は、生涯学習の素晴らしいお手本となります。「高齢者の良いところを若い人が見習ってくれるといいですね。高齢者には細やかな気配りのできる人が多く、奉仕の精神も強いように思います」と中嶋会長は話します。思いやりや、積極的に学び続ける姿勢を、皆さんは自らの行動を通じて若い世代に見せてくれています。



年輪の会の皆さんは「みんなが集まっておしゃべりをするだけで、とても楽しい生活を送ることができそうですよ」と話します。区では、今年も年輪大学の受講生を募集します。詳しくは本誌東区5ページをご覧ください。

### 商店街の主な商工業者

**池田商店**(北10東1)  
米・雑穀商。池田新三郎が経営した、街道最大の商店です。一時、「エンバクの相場は池田商店によって決まる」と言われました。

**植田木工場**(北9東2)  
植田繁太郎が経営した大規模な木工場です。植田は製材業により財を成しました。

**吉田醸造所**(北9東2)  
吉田豊吉が経営。みそ・しょうゆを炭鉱地帯に販売し、盛業でした。

**大森屋松村商店**(北10東1)  
松村與三郎が経営し、米と雑貨を販売。農村への米の取扱高は街道随一を誇りました。

**五銭そば**(北6東1)  
かけそばの値段が五銭。帝国製麻の従業員、石狩の農民、近所の人たちなどで盛況でした。あまりにおいしいので、へびをだしに使っているのではないかといわれたそうです。

『北神会館』(昭和46年発行)所収の古老による思い出話を参考にしました



石狩街道(大正9年)

挟んで商店街ができました。石狩方面の人たちは、札幌で商売を終えた帰りに商店街に寄りました。みそ、菓子、葉、文房具

水陸の交通と商店街の形成  
一八八八(明治二十一年)、札幌と茨戸を結ぶ石狩街道が開通します。この街道を馬車が通って、石狩や当別産の魚・農作物を札幌へ輸送しました。また、創成川も物資輸送に利用されました。今の北一〇条に船着き場があり、石狩、茨戸から物資が集まったのです。石狩方面から来る人たちを目当てに、今の鉄東地区の石狩街道沿いを中心に店舗が建ち始めます。次第に商工業者が集まり、街道を

昭和三十年代になると、都市化が進み、商品流通や市民の生活様式も急速に変化します。後には石狩街道も拡幅され、たくさんのお店が立ち退きました。時代の変化とともに商店街もその姿をとどめることはできなかつたのです。

にぎやかな商店街  
一九二一(明治四十四)年、茨戸と北七条を結ぶ馬車鉄道(馬鉄)が石狩街道で運行を開始。馬鉄は雑穀・亜麻など沿線の農作物を輸送しました。石狩、茨戸の農民も馬鉄を利用して、日用品を買うために商店街にやって来たのです。馬鉄の運行によって、街道の交通はさらに頻繁になり、商店街のかわいはいは一層活気づきました。

などを買ったり、食事をしたりして帰路に就いたのです。



第26回

石狩街道沿いの商店街